



ASD（自閉症スペクトラム）のある人の 就労上のバーンアウトの支援を考える ～記録と面談は有効か？～

このセミナーでは、ASDをはじめとする発達障害に関連した困難のある方が、よりよく・健やかに働くために、どのような理解と支援が必要なのかについて、ASD特有のバーンアウト（燃え尽き）の観点から考えます。

ASD特有のバーンアウトとは、近年、研究上・臨床上で明らかになりつつある概念です。特性に合わない環境や要求に応え続けることによる身体的・精神的消耗に特徴づけられ、状態としては、長引く（または繰り返す）強い疲労・倦怠感、感覚障害などの特性の一時的な増大、そしてスキルや能力の低下（一層の実行機能障害など）が生じると言われています。

このバーンアウトは、発達段階、場面や立場の違いにより、観察される景色や経験される事象にバリエーションがあるため、関わる人が多い就労場面では特に、当事者を含めた関係者での共通認識の持ち方と、予防や回復のための支援のあり方が課題となります。

就労上で生じ得るバーンアウトを予防する、あるいは早期に気づいて望ましい回復支援につなげるには、具体的にどのような視点や関わりが求められるのか、本セミナーでは「記録／セルフモニタリング」と「面談／対話」の観点から検討します。

日時：2024年2月18日(日) 10:00～12:30

場所：オンライン(Zoom)

対象：発達障害の支援関係者、障害者雇用・就労支援関係者、その他
当日、オンライン受講の環境準備が可能な方

内容：話題提供、パネルディスカッション（質疑応答）

<話題提供>

神崎 幸氏、井原 希実子氏（はーとふる川内株式会社）

網代 美保氏（株式会社ベネッセビジネスメイト）

千田 若菜（医療法人社団ながやまメンタルクリニック）

柴田 珠里（横浜日吉就労支援センター）

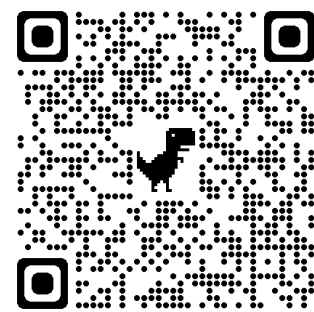
<司会、指定討論>

小川 浩（大妻女子大学人間関係学部）

Zoomによる
オンライン
開催

参加
無料

定員
70名



お申込方法

大妻女子大学共生社会文化研究所ホームページ (<http://www.iisc.otsuma.ac.jp>) 内の参加申込フォームよりお申し込みください。申込フォーム (<https://forms.gle/TngzcSe4fdmJqqSN7>) には上のQRコードからもアクセスできます。定員に達し次第、締め切らせていただきます。

お問い合わせ

wakana.chida@otsuma.ac.jp（千田）